

【平成 28 年度苫小牧市予算編成方針】

苫 小 牧 市 長

1 国の経済情勢 ～内閣府 月例経済報告より～

国内経済について、景気は、このところ改善テンポにばらつきもみられるが、緩やかな回復基調が続いているとされている。先行きについては、雇用・所得環境の改善傾向が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかに回復していくことが期待される一方で、海外景気の下振れなど、我が国の景気を下押しするリスクや金融資本市場の変動に留意する必要があるとされている。

国においては、大震災からの復興を加速させるとともに、デフレからの脱却を確実なものとし、経済再生と財政健全化の双方を同時に実現していくとし、「経済財政運営と改革の基本方針 2015」、「『日本再興戦略』改訂 2015」、「規制改革実施計画」及び「まち・ひと・しごと創生基本方針 2015」を着実に実行するとしている。

2 本市の財政状況

本市の財政状況は、平成 26 年度決算で、緩やかな景気回復基調に伴う市税収入の一部持ち直しや市債残高の減少などにより、財政健全化計画で管理する財政指標がいずれも目標管理ゾーンを下回るなど、健全化が進んだ。

また、財政健全化計画の取組である財政調整基金の標準財政規模の 5% 以上の確保や、平成 25 年度に新たに設置した公共施設整備基金の一定額の確保など、基金残高は着実に増加している。

しかし、高齢化の加速や人口減少など、今後地方財政を取り巻く環境が厳しい状況となることが予測されるなか、本市においては、老朽化した公共施設の計画的な改修・建替や小中学校の大規模改修、集中豪雨等の大規模災害に備えたまちづくりなど課題は多い。

本市では、「(仮称)財政基盤安定化計画」を今年度新たに策定し、「行政改革プラン-NEXT STAGE-」の取組と合わせて、多様化する行政需要や複雑化する政策課題に柔軟に対応するため、財政基盤の強化を図っていく。

3 予算編成の基本的な考え方

本市の財政状況は健全化が進んでいるが、国の社会経済情勢や財政状況など先行きは不透明であり、事務事業の恒常的な見直しや新たな自主財源の確保など、職員それぞれが、都市経営に取り組む意識をこれまで以上に高めるとともに、更なる市民サービス向上のため、新たな視点、新たな発想により予算編成に取り組んでいただきたい。

【基本方針】

平成28年度予算編成は、昨年度と同様に「選択と集中による政策主導型予算編成」を継続するとともに、「(仮称)財政基盤安定化計画」を策定し、財政基盤強化の取組を進めていくこととし、次の重点施策・取組を定める。

【重点施策・取組】

(1) 「活みなぎるふくしのまちづくり」事業の優先化

地域との協働へつながる「ふくしのまちづくり」に関連した事業の実施や、子育て支援、高齢者・障がい者の住みよい環境づくりに取り組むとともに、今年度策定する「苫小牧市総合戦略」やスポーツ都市宣言50周年に基づく取組を推進する。

(2) 「安心安全なまちづくり」事業の重点化を継続

大雨対策事業を3年間の集中期間の2年目として引き続き実施するとともに、機能統合、シンプル&ローコストの観点から、老朽化した公共施設の計画的な改修・建替を進め、市営住宅団地の建替、小中学校の大規模改修を実施する。

また、市民の安全確保のため、救急・消防車両の更新を行う。

(3) 「財政基盤強化」への取組

全事業1件査定の実施など、時代の変化に対応した事務事業の恒常的な見直しを行う。

また、公共施設の更新のため、公共施設整備基金や減債基金を活用して将来負担の軽減を図るとともに、民間資金及びノウハウの活用を検討を進める。

使用料・手数料の見直しによる受益者負担の適正化を図るとともに、広告料収入による自主財源の確保に努める。

4 むすび

財政健全化の推進や行政改革の取組により、本市の財政状況は健全化が進んでいるが、今後においては、高齢化の加速や人口減少に伴い、社会保障費の増大と市税収入の減少が同時に進行するなど、財政運営は極めて難しい局面を迎えることが予測される。

さらに、老朽化した公共施設の改修・建替の時期が集中することから、総合的かつ計画的な管理の下に、財政運営の健全性を保ちながら、公共施設の更新を進めていく必要がある。

市民の皆さんと共に「活みなぎるふくしのまちづくり」を進めていくため、職員一人ひとりが正しい時代認識を持ち、事務事業の恒常的な見直しや新たな自主財源の確保による財政基盤の強化に向けた取組を進め、創造力とマネジメント力を発揮して予算編成に取り組んでいただきたい。